

第3回加西市ふるさと創造会議検討委員会会議録

1. と き 平成25年2月4日(月) 午後7時00分～午後9時40分
2. と ころ 地域交流センター 集会室
3. 参加者 委員14名
4. 欠席者 委員4名
5. 事務局 加西市ふるさと創造課 3名
6. 議 事

- (1) 「ふるさと創造会議」の段階的発展について
- (2) 支援制度について
- (3) その他

| | |
|-----|--|
| 委員長 | 前回提出案からの修正を事務局より説明をお願いします。 |
| 事務局 | 事務局が説明。(資料1) |
| 委員長 | 事務局からの説明に質問がございましたらどうぞ。資料1に円卓会議を加えてもらっています。 |
| 委 員 | 円卓会議は、どこが主体となって運営するのか。まちづくり協議会がある地域は、そこが運営するのか。それとも市がするのか。区長会がするのか。どうなのか。 |
| 事務局 | 資料3の中に、運営の項目があるので、先にその部分を説明。 |
| 委 員 | 小学校区単位で実施するのであれば、県民交流広場事業を実施している地域が多いので、その組織をまるごと創造会議の組織にできるのではないかと。そちらのほうがスムーズではないかと。 |
| 委員長 | 県民交流広場で組織ができているところは、円卓会議を飛ばしても問題ないと思うが、組織の漏れがないようにしなければいけない。 |
| 委 員 | 各地区によって、事情が違うので、今のまちづくり協議会の完成度が違う。市も入ってくるので、そのあたりは調整してもらいたい。 |
| 委員長 | 前回の議論の中で、すべてが同じレベルまで達していないので、設立前に円卓会議のようなものを実施してはどうかという話になったと思う。 |
| 委 員 | ふるさと創造会議の主旨にあう組織ができていれば、それを使うのも一つの方法。 |

- 委員 既存の組織とこれから考えていく組織とうまく移行できるのか。疑問がある。やはり順序を経ていかないといけないと思う。
- 委員 そのとおりで、既存の組織を移行していく場合でも、順序立てて進めていかないと、主旨が変わってくるので重要です。
- 委員 事業拡大の時点で、どこが主体になって、誰がリーダーとなって進めていくのが難しい。人材が不足している。後継者がいない。
- 委員長 行政からの支援制度がどのくらい地域に効き目があるのかどうかだと思う。それでは、支援制度について事務局から説明を受けてから、もう少し議論を進めましょう。
- 事務局 事務局より支援制度を説明（資料2・3・4）
- 委員 現時点では、交付金か補助金かどうかは決めていないとのこと。
- 委員長 みなさん、自由にご発言ください。
- 委員 前回、欠席してしまいましたが、いまいち、ねらいが良くわかっていない。創造会議の良さがわからない。事例は良いことしか出ていない。住民が良いことだという思いにならないと動き出せない。はつらつ委員会や町の行事でも減らしていこうという状況である。若い人達が町の行事に参加しない。どうすれば参加してもらえるか。顔の見える付き合いをしないといけないとは思っている。
- 委員長 今、委員さんがおっしゃられた中にテーマがあったように思います。若い人がどうすれば参加できるかを考えることが地域の課題になってくる。テーマをきちんと持たせれば、見かたは変わる。平成25年のいついつまでに、一斉にスタートしなければいけないとは思っていない。細く長く考えている。
- 委員 本当にやろうとしているのか。形が見えない。
- 委員 入り口の段階で議論を詰めておく部分だと思うが、事業の内容によっては、地方自治法に抵触する部分と市の本来の責務の事業ではないかと思う部分もあり、その整理をお願いしたい。
- 事務局 資料5を参考にさせていただき、階段を上っていくにつれて、事業も拡大し、NPO化すれば問題ありません。
- 委員長 地方自治法上には、市が最低限しなければならないことが記載されている。大都市は、あらゆるものに手を広げすぎて、赤字体質になっている。農村部も同じ。権力行政であり、たとえば税金の徴収や飲食業の営業停止等は、行政の責任で行なわなければなりません。民営化できない。それ以外は、ほとんど実際委託している。市役所を建築するのも市長が図面を引いて、工事監理なんかしない。民間の業者がしている。これを委託と言います。事務であれば事務事業委託、工事であれば工事請負契約。介護ビジネスなどは、都市から大手業者が入ってきて、加西市のお金をごっそり持っていく。それを地域で事業を行なえ

ばお金も地元に戻せる。民生委員ぐらいを残しておいて、ほかの委員は委託できてしまう。しかし、専門性を持った人など人材が不足している。
委託金と補助金の違いですが、委託金はあくまでも行政が最終責任を持って、民間にお願いしても責任は行政が取る、補助金は行政が団体に対して、公益性の高い事業などにお金を出しますよというものです。助成金の中に、補助金と交付金があってこれまで使い勝手の悪い補助金よりも交付金のほうがいいのではないのでしょうかということです。
事務局は欠席なされた、委員に説明を行なってください。
加西市は、小学校区ごとにふるさと創造会議を作ってほしいと市長がおっしゃっている。それは、平成何年の何月までに設立しないといけないとは考えていない。地域の特性があるので一斉には思っていない。

委員 ターゲットをどこにするのか疑問。

委員長 ターゲットは資料で言いますと、資料3の運営については、区長・老人会・婦人会・PTAなど団体に入ってもらって話あって議論してもらおう。

委員 そこは理解しています。

委員 タウンミーティングがあって、その場で委員はどのような立場でいるべきなのか。どのような発言をすればいいのか。理解度にまだ自信がない。この会議の必要性はわかっている。

委員 私もまだイメージを持っていない。下から盛り上がってくる課題がない。上からこのような会議をしても、さて何をテーマにしたらいいのかわからない。

委員 市が説明するものの我々の立場はどうすればいいのか。

委員 課題が無いことはないでしょう。たくさんあるが、危機意識があるかどうか。たとえば、これだけ子供が少なくなってきたことは問題だという意識が働くかどうか。協議会も意識の差があり、高いところはいいが、低いところをどうするか。これは市が入って促してくれる。最初が難しいと思う。

委員長 おっしゃることは良く分かる。この前の宇仁郷の話では、危機意識が共有できていた。そのような危機意識を持てるかどうかだと思うが、そんなに荷物をいっぱい背負わなくてもよい。まずは、現状を把握する作業すればどうでしょうか。現状を知れば、こうすればいいという思いが出てくると思う。今は大丈夫と思っているが5年もすれば、危機がやってくるかもしれない。このままでは危ないと気づいてから行動するのは遅すぎる。加西市は追い詰められたところには至っていない。それが弱みでもある。しかし、強みでもあって、今行動すればくい止めることができるかもしれない。復活させる力が残っている。やるなら今だと。但馬のほうの中山間地域ではここまできたら立ち上がらなければと思ったが、5年持たせる力が残っているかわからない。せつかく作ったのに解散に追い込まれたところもある。気づいたのが遅かったのかもしれない、またはもっと大きな単位で考えなければいけなかったのかもしれない。

委員 実際、人が増えたらいい、地域が活性化すればいい、商店街が活性化したらいいといっても、果たしてそれが達成するだけでいいのかと思う。税金をたくさん使ってしまうだけ

にならないか。老人アパートを作って都会に住むほうが幸せなのかもしれない。そういった議論もできるようなればいい。反対するという立場に立ってもいいものなのか。

委員長 市の立場としては、市から出て行きたい人は出て行けばいいとは言えないでしょう。

委員 現実問題として、そのようなことを言ってもいいのかどうか。それが市にとっていいことならば。

委員長 率直に話あってもいいのでは。

委員 都合の悪い人は出て行きなさいとは言えないでしょう。

委員長 そういうのも含めて話し合っていると思う。市は、昔のようにV字回復するということは思っていないだろう。今の人口減少の中で、いかにゆるやかにするかを検討しているだろう。

委員 タウンミーティングはどのようなスタンスで望めばいいのか。

事務局 明日から11箇所で行ないますが、このような制度を検討していますという説明のみで、あとは地域の課題や要望をお聞きする場になると思います。

委員 特に委員として参加しなくてもいいのですね。

事務局 はい。

委員 地域の人から聞かれたどうするかを悩んでいる。

委員 事例に出ているところは、目立っているが、そのとなりの地区でも同じことをしているはず。なんらかの理由で載っていないだけ。地域の3割程度の賛同を得たら進めていい。3割の人に成功体験をさせることで、のこりの7割には仕方がないと思わせないといけない。活動を止めた人は、批判する側に回る。黙っていてくれたらいいが、なぜ止めたかなど批判するようになる。それをされると厳しい。共通課題をきっちりして、指導者をしっかり見つける。

市長の話はそれとして、その思いを地域に当てはめていっても地域の共感は得られない。地域内での同士のどうやって見つけるか。10名ぐらい必要。

委員 核になる部分が大事ですね。

委員 共通の大きい課題を作ったが、すべてが賛同ではなかった。いろんな意見があったが課題を決めた。それが達成されてからが問題。いつまで続けるのかという意見もあります。イヤイヤしている人もいる。区長会もつらい立場で、市もだれがやっても同じという制度を作ってはダメ。兵庫県の県民交流広場事業を実践している方の懇談をしてはどうか。組織は県の指導を受けながら作っていったので、いい組織運営をしているところがある。そこを抜きにすると、混乱が起こる可能性がある。

委員長 共通の危機感をもてる課題を見つめる。現状を見えていない雰囲気もありますね。円卓

の前に学習会を開いてもいいと思う。いいところ悪いところをお互いに話し合うだけでも変わってくる。課題となりやすいのは、防犯防災。都市部では防災、農村部では防犯の関心が高い。一人暮らしの老人をどうやって支えるか。これは役所の力ではどうしようもありません。要援護の人ではない。要援護の人は役所が把握している。元気な独居老人のケアが谷間で対応されていない。ある日突然・・・ということもある。役所は本音を言えばいいと思う。これ以上地方は借金ができない。国債がクラッシュする恐れもある。交付税も増えない。地方財政は成長しない。役所も限界にきている。

市に参画できる市民を増やしていくものを作っていけないといけない。地域担当職員以外も地域に出てこないといけない。ボランティアに参加しないといけない。総加西市民が参画していかなければならない。区長さんをお願いばかりではいけない。ある意味で社会参加を促す仕組み。

委員 40代を巻き込むのは無理と考えてもいい。副会長に老人会と小学校のPTA会長に就任してもらっているが、PTAは最初のほうは会議に出席してくれるが、会議の内容がPTAには関係の無いものが多いので、だんだんと出席しなくなる。それは自分が40代のときもそうだった。村のことなんか興味がなかった。若い人が参加してくれることなんか、数パーセントも無い。やはり、リタイヤ組に今度は地域に恩返しをしてほしいと。それでも出てこないと思う。でも呼びかけはしないとけない。若い人が参加しないことがダメということは言うてはいけない。役員は、少なくとも5年はしないとけない。順送りはしてはいけない。代表区長をすればスライドで会長になるというようなことでは、区長の成り手がでてこなくなる。

我々は実践しておられる方の声を聞くべき。

委員 まだ、少し釈然としない。

委員 家の中でも、いつまで議論しているかと言われてしまう。

委員 現職の区長さんがやってやるという気持ちをもっている人ならいいが、なんとかして避けたいと思っている人ばかりだと思う。

委員 そう、それに困っている。

委員長 その区長さんを媒体として、どの方をリーダーに据えるということを考えてもらう。それを学習会や円卓会議で議論できると思う。

地域は、そんなに危険な水域だという認識はもっていないだろう。実際は、危機的な状況になりつつある。

委員 全体の課題をどうするか。横断的なものはできてくるが、ここの町の課題を共通化してはいない。

委員長 データから見ますと加西は、今から約6～7年前のA市です。その頃から地域協議会の検討がはじまっていました。今のA市の高齢化率は、28.7%。加西は26.2%だが、数年で28%になる。A市と変わらないのです。

委員 なんで加西は変わらないのでしょうか。

- 委員長 豊かだからです。人の流れが復活すればなんとかなると思う旧の商店街は、意識が低い
です。農業で過疎が進んでいるところは意識が高く、今は逆に元気が出て頑張っている。
- 委員 加西も農業があるが、兼業の人が多からだろうか。営農組合があるからなんとかなる
と思ひ、危機感が無いのだろうか。
- 委員長 都市部は、ルールが壊れてきて、人間関係が冷たくなり、家庭が崩壊し、核家族化が進
み、共働きで子供が孤立している。地域協力が無い。それが学校におけるいじめの要因に
もなってくると思う。それは行政コストに押し付けている。学校の責任にしている。半分
以上は家族の責任、地域の責任だと思っている。なんでもかんでも学校の責任にしている。
悩みを持っている子供達を救ってやれない。親は忙しく子供をきちんと見られない、おじ
いちゃん達や地域の人もないから気にかけてくれない。近隣のおじさんが、悩みを聞い
てくれるとか子供達が逃げ出せる場所が無い。ストレートに役所対自分の関係なる。だ
からといって、家庭を批判するつもりはないです。みんなが痩せてきている。農村部は、
痩せてはきているが、人がいなくなっている。すばらしいおじいちゃんおばあちゃんがい
るが亡くなっていく。行政はこれ以上財政支出を増やせない。縮んでいく。手を打つには
今しかない。
- 加西市の高齢化のスピードは速いので、A市よりも早く28%を達成するのではないか。
数字の上から、現状を理解する必要がある。取り組みやすい。防犯、防災、一人暮らしの
老人のケアなど地域の見守りとかは取り組みやすい。加西市では犯罪に巻き込まれるこ
とはなかったですか。無いのであれば、見守るネットワークができていないのかもしてない。
- 委員 大きいものは無い。
- 委員 私は、地域にいる子供達の名前は、すべて言える。
- 委員長 それはすばらしいこと。これを守らないといけない。財産です。
- 委員 限界集落ができてきたらどういった問題が出てくるのか。加西市でも高齢化率が高いと
ころがあるが、息子達が近隣市に住んでいることが多く、週末は帰ってきて、町の行事に
参加してくれている。そうなので、危機意識は薄い。協議会として問題にしたいが、その
町は、ほっておいてくれと言われる。
- 委員長 限界集落になると、絶対に人口は増えてこない。新しい人が入ってくることはない。絶対
減になる。地価が下がり、資産価値が下がり売却もできなくなる。現在、B市でも取り組
まれている。高齢化率45%。山間部集落に住んでいる住民に、平野部に降りてくるよう
に誘導しているが、山間部の土地は二束三文になってしまっている。売れもしないのでほ
おっておくしかない状況。限界集落になるというのはこういうこと。
28%を一つのラインとするならば、半分以上の集落は過疎になりつつある。これを知る
ことが危機感の共有になる。
- 委員 こういう危機感は、話を聞けばわかるが、どういうふうに伝えていくか、効率的な方法
はないか。
- 委員 市のほうにやっていただきたいのは、人口が減っていることをタウンミーティングでも
説明していただいた。危機感を抱いた人は行動する。具体的な行動を起こすには仲間がい

る。人口が減ったときにはどのような影響が出るかを行政は伝えなければいけない。みなさんの地域では、どういった問題が生まれるかをわからないといけない。地域のみなさんがそれを共有することで目的も明確になってくる。

委員長 行政はすでに公表はしている。総合計画に出されていますよね。

事務局 行政も議論し公表している。タウンミーティングでも数字を公表したが、具体的にどういったことが起こるかは説明していない。

委員 先行きが見えないことが、不安になりこの議論が進まない。市長が5万人を目指すということは別にいいと思う。行政は、減少した場合も考えなさいと提案しないとイケない。データが意味することを地域に説明しないとイケない。タウンミーティングでも伝えるべき。

委員長 総合計画では、人口は右肩下がりが減っていくことを示されて、議会でも承認を受けた計画。市の宣言書です。

事務局 宣言書ではなく、あくまで5万人を目指す。

委員長 このまま行けば、人口は減少する。何もしなかったらこうなりますよという説明をしないとイケない。現実を認識して取り組んでいかないとイケない。右肩下がりのトレンドをどう捕らえていくのか。行政もきちんと取り組んでいかないとイケない。

委員 前回のタウンミーティングで人口の表が出ていたが、参加者はあまり響いていなかった。行政のほうでももう一度説明しないとイケない。

委員長 確認をしていきます。ふるさと創造会議を各小学校単位で作るのが市の方針である。一斉に始めるのではなく、地域ごとに実情に応じて個性的且つ着実に進めていく。検討委員会の委員さんには、中核に入って欲しいなと思っている。しかし、委員さんは説明できるほど理解をしていない。市に提言する時点においては、説明ができるようになりましょう。説明ぐらいいは。リーダーの見つけ方ですが、まずは地域実情を認識する円卓会議また学習会を開いてはどうか、そこでは市も積極的に関わって欲しいということ。行政のバックアップは必要。地域におけるテーマは、みんなが“そうだ”と思えるものをつくる。防犯・防災・見守りなどがテーマになりやすい。安全安心の課題づくりがいいだろ。その地域の強みも議論すると楽しい。農業は何度も話題に上がるので、特産品でも工芸品でも考えればいい。B市もいろんな取り組みをされている。廃工場あとで事業を取り組んで、テレビなどの取材が多く、それがB市のPRになっている。B市にゆかりも無い人で、いわゆる「よそのもの」。その「よそのもの」をどう取り込んでいくかもテーマになりうる。アーティストを呼んでくるなど。各部門が、将来、NPO化や株式会社になって法人格を持って地域の核になって、市からどれだけ委託を取れるかを考えていくのも一つの手ではないか。

どのような委託が可能か事務局から具体的な提案を挙げてもらえませんか。河川の管理委託や道路修繕など。ふるさと創造会議の収入として確保していく。そういうものがあれば、みなさん具体的なイメージができる。弁当配達や学童保育の委託をうける。退職された先生などに再度出てきてもらって活躍してもらおう。違う地区からも委託を受けるようになっていく。農産物もいいが、少し目線を変えていくとビジネスになるものがたくさんある。行政も地域に委託すれば、安くてもいいものが提供できることがある。

委員 日程ですが、もう少し理解しないといけないので、共通認識を持つことがまだできていないので、実態が伴うものにしないといけない。市全体として認識については足並みをそろえないといけないのではないかと。会議をもう少し早められないか。昼間でもいいのでは。

委員長 委員さんで日程調整し、4から5時間による会議をしてもいいのでは。

事務局 事務局主催でよいでしょうか。

委員長 かまいません。正式な会議ではなく、勉強会でするのはいい。

委員 県民交流広場の協議会の代表にも声をかけてもいいのではないかと。生い立ちが大事なので。区長会に丸投げはよく注意していかないと。区長会ですのか仲間内でするのがいいのかをよく議論しないといけない。区長が自治会に話を持ってかえったときに説明できない。

委員長 先進地の話も聞き、そうでない地域の話も聞き、いろいろ話し合っていきましょう。平成25年度の予算を計上ですが、全ての地区であげる必要はなく、3地区程度でも問題ない。一括でしないとダメだという議員さんは言わないと思う。補助金より交付金のほうがいいと思います。補助金は返還をしないといけない。交付金は繰越もできるし自由度が高い。交付金のほうを支持されていると思いますので、その方向で作業をお願いします。事務局には、できるだけ多くの委員が参加できる勉強会を実施してください。

委員 補助金の受け皿の請求元を、区長会か協議会なのかを決めておく必要がある。

委員長 そのあたりも事務局に検討願います。その他はございますか。

事務局 資料の説明ですので、委員さんのほうでお目通しをお願いします。

委員長 加西市ふるさと創造会議検討委員会としては、いいところもできているが、要綱に基づく予算支出は、住民監査請求等により協議会が潰されている。これを避ける為に、交付金の支出条例を作ってください。条例原案を事務局で作ってください。創造会議のことについては、みなさん反対されていないので、その思いを潰さないようにしましょう。